

困った時、困る前の トラブルシューティング



電工ドラム(30m/50m防雨型)の取扱い!!

電工ドラムには過負荷・過電流状態に陥った時に働く漏電ブレーカーの他に、キャップタイヤケーブルの帯熱によるショート(短絡)を防止するために、内部温度が80℃を超えると電流を遮断する『温度センサー』が備わっています。急に機械が作動しなくなった、その原因と対処方法について説明致します。



左写真の様に電工ドラムを介して小型機械を作動させると、**キャップタイヤケーブル内が帯熱し、ケーブル内部の温度が80℃以上に達してしまうと、温度センサーがはたらき、通電を遮断してしまいます。**

ここで問題なのは、キャップタイヤケーブルがリールに巻きついたままになっているので帯熱し、ケーブル内の温度が上昇(80℃以上)することにより、温度センサーがはたらき、通電を遮断してしまいます。

《この部分を拡大してみると...》



- ・パイロットランプが点灯している。
- ・漏電ブレーカーが「入」の状態になっている。

にもかかわらず、機械が作動しなくなった。
注)漏電ブレーカーが「切」の状態になり、パイロットランプが消灯していれば、過負荷・過電流による漏電遮断機がはたらいている状態です。

まず、機械のスイッチがONになっていることを確認してください。それで機械が作動していないならば、**確実に温度センサーがはたらいています。**

《復帰させる方法は...》

- ①最初にコンセントに繋いでいる機械のスイッチを**OFF**にしてください。そうしなければ、**温度センサーが復帰した後に急に機械が作動して、思わぬ事故を招くことがあります。**
- ②リールに巻き付けてあるコードを全て解いて温度センサー部分を大気に約1分程度さらせて温度センサー部分を冷やしてください。そうすれば**自動で復帰**します。
- ③機械のスイッチをONにして、作動すればOK



《正しい使い方》



通常、電工ドラムを介して100Vの小型機械を作動させる際には、右上写真の様にセットします。
※必ず赤丸の黄色テープが見えるようになるまでリールのキャップタイヤケーブルをほどいて下さい。

